

## 調査研究報告書

事業主体名	千葉大学大学院園芸学研究科 福島チーム	電話	
代表者職氏名	博士後期課程2年 福田 昌代	ファクシミリ	
調査研究名	コミュニティビジネスが成立する地域の暮らし方に関する研究		

## 1 調査研究の実施概要

実施内容	<p>南相馬市の課題解決のために、以下の調査研究を実施しました。</p> <p>南相馬市小高区には、2019年6月に今回の調査メンバーを含めて研究室で初めて訪問し、まちなかで小規模な事業者や住民団体の活動が起きていることを知り興味を持った。東日本大震災および福島第一原子力発電所事故から10年が経過し、復興の検証が必要だと言われている。現在までに、原発被災地を対象として、復興の実態と課題を明らかにしたもの、原発被災地で実施されているコミュニティ形成の活動やそれが行われる場の意義や役割を考察したものなどが報告されているが、現在、事業や住民団体の活動を行っている人々がどのような経緯で事業を開始し継続してきたのかといった原発事故後の経緯に着目した研究は報告されていない。</p> <p>そこで本調査研究では、小高区で東日本大震災後に事業や住民団体の活動を開始した事業者、住民団体を対象として事業や活動の開始から現在までの経緯を明らかにすることを目的として調査研究を行った。ヒアリングの内容は、各事業者および団体の活動内容や、活動開始前から現在までの経緯および今後の展望についてお聞きした。</p> <p>また、仮設住宅入居期が事業や住民団体の活動のきっかけとなっているのではないかと考え、南相馬市建築住宅課、都市計画課の職員の方々に仮設住宅への入居方法やコミュニティ空間の確保、当時の被災者以外への居住支援などについてお聞きした。</p> <p>その他、現地調査として、ヒアリング調査対象の小高区中心市街地の状況のほか、南相馬市内の災害危険区域や除染による除去土壌の仮置き場跡地の土地利用の状況を確認した。また、南相馬市博物館企画展や神社の見学、個人商店を訪問し、南相馬市の歴史や文化、東日本大震災による被害の状況について学んだ。</p>		
調査研究費	総事業費		300,009 円
	うち補助対象経費		300,009 円
	補助金額		300,000 円
調査研究期間	2020年8月1日 ～ 2021年3月31日		

## 2 事業実施の成果

南相馬市の課題	<p>調査研究により、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者や住民団体からのヒアリング調査では、自分が寂しいという自分ごとから居場所作りが始まったこと、活動開始時から各団体が自立して活動するとともに、特に移住者は、地域内で起こっている類似の他業者とは異なる手法で事業を営むことで、自身の立ち位置をわきまえながら活動していた。一方で、各事業者および住民団体は、自力または知人の紹介を通じて活動場所を確保しており、不動産物件が足りない、または多くの住民が避難している状況下での場所の確保が課題であった。</li> <li>・現地調査では、災害危険区域や仮置き場の跡地を見学し、災害危険区域内では土地利用の多様性が少ないこと、仮置き場跡地では、利用されていない土地の今後の管理が課題になると考えられた。</li> </ul> <p>という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になりました。</p>
課題解決の提言	<p>課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者の居住場所や起業、住民団体の活動場所の確保や情報提供 その場所の可能性の一つとして、仮設住宅の空き室の柔軟な活用</li> <li>・行政として、大きな復興事業（再生可能エネルギーや企業誘致など）や帰還数（人口）といった目に見える結果だけでなく、地域のプレイヤーとして活動している小規模な事業者や住民団体にも焦点を当て、地域でどのような動きがあるのかを知ること。</li> <li>・また、私たちのような研究者・学生として、今回知ったこと、これに加えて10年間の南相馬市や住民のみなさまの取り組みをさらに調査し、発表してゆくこと。</li> </ul>

## 3 添付書類（内容が分かるもの）